



集落を消滅の危機から救う「自給家族」

「源流米ミネアサヒCSAプロジェクト」

一般社団法人押井営農組合



豊田市押井町「押井の里」

面積 1.8 km²
 標高 350~500m
 人口 84人(27世帯)
 農地 10 ha(田7.6ha)
 作物 水稻



森と谷間の僅かな 農地しかない人口 84人の押井の里

- ・そこには3000年にわたる人の営みがあった
- ・それは、土地に根差した食の自給の歴史
- ・しかし、この50年で里は消滅に向かい始めた
- ・農の営みを諦めた時、集落は消滅に向かう
- ・自給だったら続けられるかもしれない

VTR



一般社団法人押井営農組合

沿革	
昭和25年度(1950)	押井農業組合として発足
平成23年度(2011)	集落営農組織となる
平成24年度(2012)	トラクター導入
平成26年度(2014)	コンバイン、農業機械倉庫導入
平成27年度(2015)	田植え機導入、リースによるライスセンター事業開始
平成30年度(2018)	一般社団法人化(2019年1月8日法人登記)
令和元年度(2019)	ライスセンター、保冷库整備、「自給家族」募集

概要	
組合員	27戸(非農家1戸)
経営耕地	10.0ha(うち田7.6ha)、作業受託5.0ha
生産作物	水稻
役員	7人
従業員	季節雇用7人

集落営農組織 押井営農組合のチャレンジ

現 状

機械共同型集落営農

経営耕地 7.6ha (水稲5.0ha)
作業受託 10.0ha (周辺5.0ha)
年間売上 800万円
遊休農地 保全管理 (2.6ha)

10
年
後

将 来

機械共同型集落営農

経営耕地 7.6ha (水稲2.5ha)
作業受託 7.5ha (周辺5.0ha)
年間売上 600万円
遊休農地 保全管理 (5.1ha)

破綻

一般社団
法人設立

源流米ミネアサヒCSAプロジェクト

Community Supported Agriculture

農地集約化

「地域まるっと
中間管理方式」
による安心で確
実な集約

米の自給家族

「つながり消
費」を指向する
100家族と長
期栽培契約

機械設備拡充

ライスセン
ター・保冷库な
ど自給家族に必
要な設備拡充

農地の 集約化

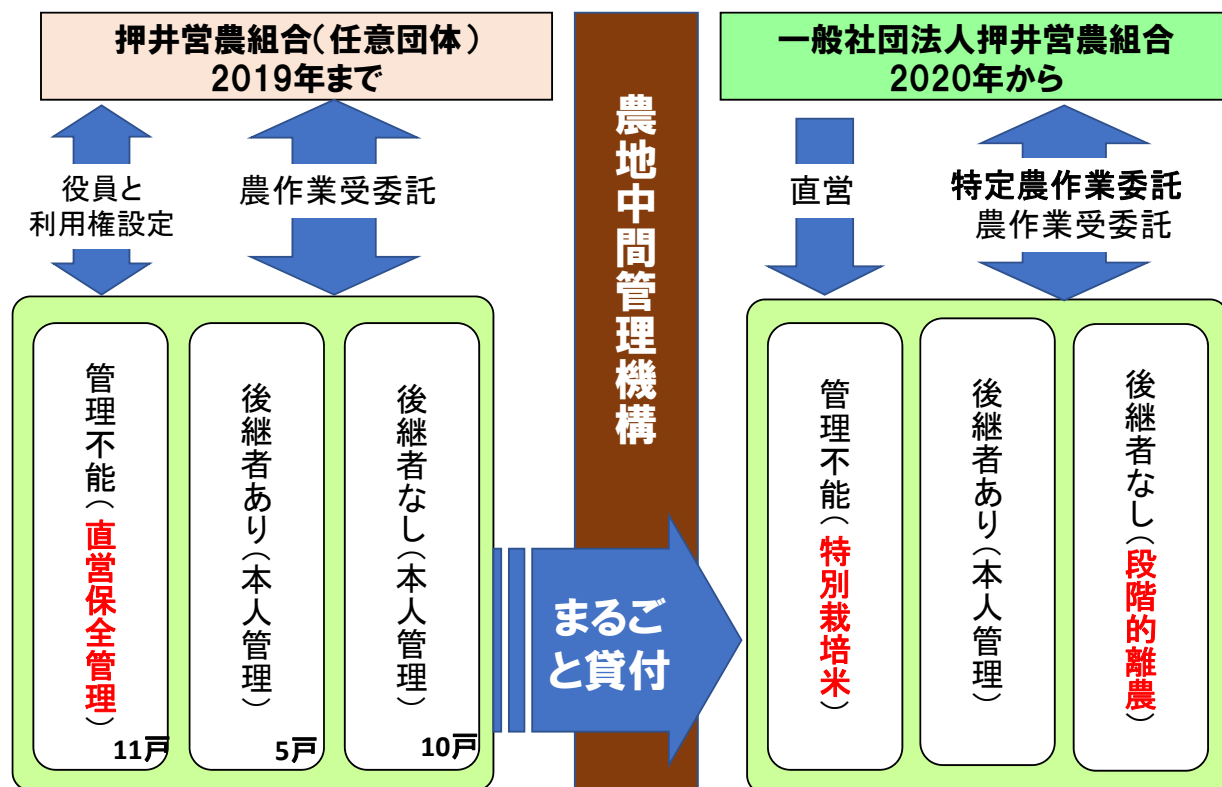
地域まるっと中間管理方式

- ①農地の利用権が持てる一般社団法人を立ち上げる。
- ②集落の全農地を県農地中間管理機構に貸し出す。
- ③集落の全農地を農地中間管理機構から借り受ける。
- ④自作希望農家と「特定農作業委託契約」を締結する。

何があっても農地は法人に戻り、決して耕作放棄されない。



「地域まるっと中間管理方式」(押井集落の事例)



米の自給家族

押井の里の家族を増やす

- ① 3～10年の長期栽培契約者「自給家族」を募る。
- ② 契約者は、1俵30,000円の栽培経費を前払いする。
- ③ 契約に基づき「特別栽培米」として生産、保管する。
- ④ 「自給」の喜びもリスクも共有する。
- ⑤ 10kg単位で発送、楽しく交流する。

得意の米で農地が守られ、食の安心を保証、双方の暮らしが豊かに、楽しくなる。



生産者と消費者がつながって、双方が豊かになる 「源流米ミネアサヒCSAプロジェクト」

押井の里のメリット

- ・農の営みが続き
農地が守られる
- ・集落が消滅の危機から
救われる
- ・「関係人口」が生まれ
暮らしが楽しくなる

親戚の米を
少し多めに
作るようなもの

米の「自給家族」

押井の里家族
(営農組合)

WIN-WIN
の関係

新しい家族
(契約者)

一つの家族となって、
自分たちが食べる安全で
美味しいお米を自給します。

新しい家族のメリット

- ・安全で美味しいお米が
確実に手に入る
- ・地球や人に優しい
消費に貢献できる
- ・自然や人の温もりを感じ
暮らしが楽しくなる

少し横着な
「棚田オーナー」
のようなもの

機械設 備拡充

米生産の機械設備拡充

①ミニライスセンター	総工費30,000,000円
愛知県山間地営農等補助金	13,794,000円
融資(農業近代化資金)	10,000,000円
自己資金	6,206,000円
②穀物保冷库「みんなの蔵」	1,429,000円
クラウドファンディングおよび自己資金	

- ・ブランド化のために必
須の機械設備の整備
- ・クラウドファンディング
で「みんなの蔵」整備



誰も損も得もしない、みんなが 少し幸せになる「自給家族」

ここがポイント

- ① 集落が家族になる ⇒ 集落営農組織化
- ② 農地集約化 ⇒ 地域まるっと中間管理方式
- ③ 持続化 ⇒ 生産者と消費者がつながる
- ④ 農業労働力の確保 ⇒ 多業・Ｉターン者



ゆるゆると、楽しんで集落を守る！

2020.2.24 「お寺片付け大作戦」

都市部からのボランティア40名を含む70名が参加。空き寺だった天台宗普賢院は、「自給家族」と集落の交流拠点として活用される。

